

二つのししまい

くまの小学校一ねん ふじい ゆうせい

ぼくのすんでいるまちにはししまいのおまつりがあります。じじがおどりをおどって、ママがふえをふいています。ぼくは、ししまいといっしょに、つぎのおどりのばしよまであるきます。

ししまいがーばんさいしよにおどるばしよは、ちよらないのじんじやです。じんじやのかみさまにおいのりして、おどりをみせてあげるのです。

ぼくは、ししまいをみて、おもしろいとおもいました。どうしてかといくと、さいしよはこわがたけど、いまはこわくなくなっています。いろいろなおどりがあるとわか、たからです。

もう一つみたことのあるししまいがあります。それは、となみのおじいちゃんの方のししまいです。まめにパパがおどって、いた。となみのししまいは、このなかまではいてくるので、おとろとは、となみのおじいちゃん

ハ
んのせなかにかくれていました。

ぼくは、二つのししまいでちがうところとおなじところがあるとおもいました。

まず、ちがうところは、ぼくのまちのししまは、ニムギです。かとなみのししまは一ぴぎです。ながさはとなみは五人はいるくらいながいです。ぼくのまちは、二人です。あとししまをすする日もぼくのまちははるで、となみはあきなのでちがいます。あと、となみのししまはまちのぜんぶのいへのまえで、おどるので、たいへんそうです。

つぎに、おなじところは、ふえとたいこのおんがくをえんそうしているところと、ししまのまわりで、おどりをおどるこどもがいるところと、それから、ど、ちのししまも、じんじやでおどるところです。

さいごに、ししまの日は、まちのいろんな人がみにぎます。みんなであっまっ、てはなしをしたりしたともたのしそうです。だか、ぼくは、ししまがすきなんです。

あ っ っ じ じ じ と か ぞ く て し し ま い せ し せ い ン て ち